

第6回国際平和博物館会議開催の主旨

第6回国際平和博物館会議組織委員会
委員長 安齋 育郎

平和博物館を平和の発信地、集約地、そして、新たな創造の地とするために

このたび、2008年10月6日から10日まで、第6回国際平和博物館会議を、立命館大学・国際平和ミュージアム、京都造形芸術大学及び広島平和記念資料館にて開催する運びとなりました。

世界の誰もが「希望の世紀」として迎えることを願っていた21世紀は、残念ながら、なおさまざまな暴力に満ちた様相を呈しています。核兵器から地雷や小銃に至るまでの武器はもとより、飢餓・貧困・差別・人権抑圧・社会的不正・環境破壊・劣悪な衛生環境や教育実態など、人間の能力を豊かに開花させることを阻害する数多くの社会的条件が存在しています。

過去と誠実に向き合い、不幸な歴史を繰り返さないための教訓をしっかりと学び、実践することは、とても大切なことです。私たちはこれまで、たくさんの戦争や暴力を経験してきました。しかし、個人の体験は時とともに失われがちです。私たちはそれを、世代を越えた社会的記憶として伝え、平和を創造するために積極的に役立てることが大切でしょう。平和のための博物館活動は、そのための効果的な方法です。

平和のための博物館は、また、過去や現在のさまざまな暴力の悲惨な実態を知らせるだけの場であってはなりません。互いに人間性を信じあい、違いを超えて手を結び合い、自己実現を阻害するさまざまな暴力を克服し、人々が能力を存分に発揮してそれぞれの目標に向かって生き生きと躍動する—そんな社会づくりのためのこころと知恵を共有できる空間でありたいものです。そのためには、平和のための多様な活動にとりくんでいる博物館どうしが経験を交流し、知恵を分かち合い、創造的な方法を編み出し、互いに励ましあってより効果的な活動を展開することが大切です。

この国際平和博物館会議は、1992年以来、イギリス・オーストリア・日本・ベルギー・スペインとほぼ3年おきに会議を開き、実績を積み重ねてきました。1998年に大阪と京都で開催された第3回会議は多くの方々の支援と参加によって、大きな成果を生み出すことができました。それから10年目の2008年10月、第6回国際会議が再び京都と広島を舞台に開かれる運びとなりました。

私たちが直面している国際紛争や地球環境問題など、人類の死活に関わる重要な問題を解決するために、平和博物館は「ピース・リテラシー」（平和創造のための教養）の涵養と普及にどう貢献できるか—この大切な問題についての知恵を深め、共有するために、ぜひ皆さんの積極的なご支援、ご協力、ご参加を期待いたします。

平和博物館を平和づくりの発信地、集約地、そして、新たな創造の地とすることを願って。

第6回国際平和博物館会議の開催について

主催：第6回国際平和博物館会議組織委員会

共催：立命館大学・国際平和ミュージアム、京都造形芸術大学、
広島平和記念資料館、東北芸術工科大学、立命館アジア太平洋大学

◆ 2008年10月、京都・広島で第6回国際平和博物館会議を開催（別紙主旨）

【開催日時】2008年10月6日（月）～10日（金）

【テーマ】平和創造の空間としての平和博物館

—地球的問題解決のためのピース・リテラシーの構築を目指して—

来る2008年10月6日（月）～10日（金）、京都・広島を舞台に、「第6回国際平和博物館会議」を開催します。メイン・テーマは、「平和創造の空間としての平和博物館—地球的問題解決のためのピース・リテラシーの構築をめざして」です。

「ピース・リテラシー」とは、「平和創造のための基本的能力」というほどの意味で、世界の市民が平和創造に取り組む力量をつける面での平和博物館の役割を念頭においたものです。

◆ 共催団体と日程

第6回国際平和博物館会議は、立命館大学・国際平和ミュージアム、京都造形芸術大学、広島平和記念資料館、東北芸術工科大学、立命館アジア太平洋大学の共催で実施致します。

【日程】

2008年10月6日（月）・7日（火）・8日（水）：立命館大学

2008年10月9日（木）：京都造形芸術大学

2008年10月10日（金）：広島平和記念資料館

「平和と民主主義」を教学理念とし、世界で唯一の大学立の平和博物館を持つ立命館大学・国際平和ミュージアムと、「自由・平和・ヒューマニズム」「国際相互理解」「アジア太平洋の未来創造」を基本理念とする立命館アジア太平洋大学、「芸術による平和創造」という理念に基づき、芸術教育を行なっている京都造形芸術大学と東北芸術工科大学、原爆による被害の実相を世界中の人に伝え、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に寄与するために設置された広島平和記念資料館の5者が、今回の会議の趣旨に賛同し、参加を表明しました。

◆ 各会場で、平和博物館というテーマを巡り、多彩なプログラムが行われます

立命館大学では、立命館アジア太平洋大学との協力のもとに、多彩な講演、平和のための博物館ネットワーク総会、分科会が学生参加にも意を用いて準備されますが、京都造形芸術大学では、東北芸術工科大学との協力のもと、「芸術による平和創造」をテーマに、シンポジウム、パネルディスカッション、展覧会、狂言、和太鼓の上演などが計画されています。広島では、平和記念資料館や原爆ドームの見学に加えて、被爆者の証言、記念講演、核兵器廃絶に関するシンポジウム、ヒロシマ・ナガサキポスター展などが予定されています。

◆ 世界の平和博物館関係者が参加する予定です

この国際平和博物館会議は、次のような歴史をもっています。

【過去の開催経歴】

- 1992年 第1回会議 ブラッドフォード（イギリス）
- 1995年 第2回会議 シュタットシュライニング（オーストリア）
- 1998年 第3回会議 大阪・京都（「ピースおおさか」と「立命館大学国際平和ミュージアム」が共催、
「広島平和記念資料館」「長崎原爆資料館」「沖縄県平和祈念資料館」が協力）
- 2003年 第4回会議 オステンド（ベルギー）
- 2005年 第5回会議 ゲルニカ（スペイン）
- 2008年 第6回会議 京都・広島（立命館大学・京都造形芸術大学・広島平和記念資料館など5者共催）

世界には110館あまりの平和博物館がありますが、半数以上は日本にあります。日本は世界の平和博物館の活性化のために積極的役割を果たすことが期待されています。今回、国際平和博物館会議の2度目の日本開催に、20をこえる諸外国から約100人の参加者を見込みつつ、国内の平和博物館関係者や学生、市民など、のべ2,500人規模の参加を期待しています。

◆ 4本の記念講演が決まっています

会期中に、以下の講演が予定されており、さらに追加を検討中です。

- ①ピーター・ヴァン・デン・ダンゲン氏（ブラッドフォード大学、イギリス）平和のための博物館国際ネットワークの統括コーディネータとして、世界の平和博物館運動の到達点と展望について講演。
- ②ケイト・デュース氏（国連事務総長軍縮問題顧問、ニュージーランド）世界法廷運動（国際司法裁判所に核兵器の違法性の判断を出させた市民運動）の経験をふまえ、市民運動の役割について講演。
- ③野中廣務氏（元内閣官房長官、元衆議院議員）自らの戦時体験を踏まえつつ、戦争の悲惨さ、平和のかけがえのなさについて講演していただきます。
- ④イ・チャンドン氏（映画監督、韓国芸術総合学校教授）映画を作り上げる中で感じる思いを元に、芸術活動が平和創造にどのように寄与することができるかについて講演していただきます。

◆ さまざまな分科会や展覧会、パネル展示を計画中です

会議では、各平和博物館の活動経験の交流に加えて、①平和博物館は現代の戦争をどう伝えたか？、②戦争博物館の平和博物館への転換、③バーチャル・ミュージアム（インターネット上で展開する博物館）の到達点と展望、④展示技術の最先端、⑤どうすれば平和博物館が作れるか？、⑥平和教育における平和博物館の活用、⑦平和博物館と平和研究の結合、⑧メディアと平和博物館、⑨文化・芸術施設等での平和の展示の可能性、などの多様なテーマの分科会も検討中です。

また、出来るだけ最新の情報にもとづいて、世界と日本の平和博物館を紹介するパネル展示（日英両文）も計画しています。さらに京都造形芸術大学では「平和博物館は可能か？」と題し、大学生、高校生が平和博物館をテーマに制作した作品展を実施します。

◆ 関連行事の企画も進行中。ツツ大司教やオノ・ヨーコさんのメッセージも寄せられます

会期2日目の10月7日は、ノーベル平和賞を受賞したデズモンド・ツツ大司教（南アフリカ共和国）の喜寿の誕生日です。すでに平和メッセージを頂いています。また、会期4日目の10月9日はジョン・レノンの誕生日であり、夫人のオノ・ヨーコさんからのメッセージが寄せられる予定です。その他の日についても、それぞれの歴史的な意味を踏まえた企画を鋭意検討中です。

立命館大学・京都造形芸術大学・広島平和記念資料館がそれぞれ主催するレセプション、会期3日目（10月8日）午後のエクスカージョン、ポスト・コンフェレンス・ツアー（東京、大阪、出雲などのコースについて具体化を進めつつあります）など、楽しく有意義なものにすべく検討しています。

◆ 一般市民の参加について

会議の本体は平和博物館関係者を主たる対象にしたものですが、記念講演が行なわれる10月6日午前中の開会総会（立命館大学以学館ホール）、10月7日記念講演、10月8日シンポジウム、10月9日京都造形芸術大学・春秋座で行われるシンポジウム、狂言などの上演と2つのパネルディスカッション、10月10日に広島で行われる記念講演、被爆体験講話会などは、公開・無料で行われる予定です。参加については、当日先着順にて受け付けますので、よろしく願いいたします。

【記念講演・シンポジウム開催日時】

☆10月6日午前9時～11時半 立命館大学以学館1号ホール
国際会議開会総会、基調講演（ピーター・ヴァン・デン・ダンゲン氏）、記念講演（野中廣務氏）

☆10月7日午後1時半～3時 立命館大学以学館1号ホール
記念講演（安齋育郎氏）、記念講演（ケイト・デュース氏）

☆10月8日午前9時～11時半 立命館大学以学館1号ホール
講演（雨宮清氏＝日立建機）、記念シンポジウム

☆10月9日午前9時半～午後7時 京都造形芸術大学・春秋座ほか
基調講演および対談（イ・チャンドン氏、千住博氏）、狂言（茂山家）、
和太鼓、パネルディスカッション（赤坂憲雄氏、浅田彰氏他）、お茶会（小川後楽氏）

☆10月10日午後1時半～午後6時 広島平和記念資料館
記念講演、被爆体験講話会、シンポジウム

なお、立命館大学会場で行われる分科会へは1日当たり一般3,000円、学生2,000円でご参加いただけますので、ご希望の方は下記の「立命館大学国際平和ミュージアム 国際会議担当」までお問い合わせ下さい。

【お問い合わせ】

〒603-8577（住所表記不要） 立命館大学国際平和ミュージアム・国際会議担当
TEL：075-465-8354